

TOKAI "make a wish" ILLUMINATION 2017

第3回目となる東海村の駅前イルミネーションを点灯します。期間中は、短冊に皆さんの夢を書いて飾り付けることもできます。昨年よりさらにバージョンアップしたイルミネーションを、ぜひご覧ください。

今年は場所を変え、
駅東第2公園での
開催です！

期間▼12月2日(土)～平成30年2月17日(土)

時間▼午後5時～午前0時

場所▼駅東第2公園(JR東海駅東口すぐそば)

その他▼12月2日(土)の午後4時30分から点灯式を行います。

問い合わせ▼東海村商工会青年部(☎282-3238)



ふるさと歴訪

―歴史を再発見―

備中からの村松参拝

平成20年6月、私は岡山県加賀郡吉備中央町(江戸時代は備中国上房郡有納村)の芝村家を訪問し、古文書を拝見しました。

享和元(1801)年正月27日、芝村家の先祖「きと」という女性が遠路はるばる村松を訪れ虚空蔵堂に参拝しました。江戸時代、虚空蔵堂は「日本三休」の一つとして西国にも知られていました。きとは虚空蔵菩薩に合掌し、現世での安穩と来世での幸せを願い、納経しました。納経とは、自分で筆記した経典(写経)を納める行為を指しますが、江戸時代になると、経典の名称だけを記した札を納めたり、本堂で経典を唱えて写経に代えたりするようになりました。残念ながら、きとがどのようにに納経したかを知ることができません。

きとが大切にしていた納経帳(芝村家文書)の中に、虚空蔵堂の正別当(管理責任者)であった龍蔵院が、きとの納経に対して発行した受取状が残っています。右



「村松山奉納経」

東海村いきいきガイドの会顧問

宮内 教男

側に「奉納経」、中央には本尊名が「大満虚空蔵大士(大士とは菩薩のこと)」と墨筆されています。それに重ねて押されている朱印は、虚空蔵菩薩を象徴する宝印です。

きとは江戸の東叡山寛永寺(東京都)から安房の清澄寺(日本三休虚空蔵の一つ、千葉県)へと進み、常陸では鹿島、水戸を経由して村松を訪れました。虚空蔵堂の後は、天神林佐竹寺(常陸太田市)、八溝山日輪寺(大子町)、さらに奥州の松島瑞巖寺(宮城県)、平泉中尊寺(岩手県)へと向かい、下北半島の恐山(青森県)まで歩いています。

交通路や宿泊施設が整備されたことによつて、江戸時代の中ごろから庶民の社寺参詣が盛んとなりました。しかし、比較的安全になったとはいえ、旅人を狙う追い剥ぎやすりも横行しており、女性が遠路を旅するときには供の男性を必要としていました。この時代の社寺参詣は物見遊山的・遊興的な側面が強調されます。しかし、芝村家に残された分厚い納経帳は、きとの社寺巡礼が聖地・霊場を目指す、信仰としての旅だったことを伝えています。